

## 水俣一患者さんとその世界—上映にあたって

・ひとりの患者さんが言うのです。

「親も殺され、子も殺されて、いっぺんは自分も死んで、ただの糞便じゃなかつたら生きてもらいたいが、人の情と煩惱で。この先しかし何年生きてく厄介かけることじゃろか。荷物にならんじゃろか。見も知らん方にまで。自分の業はひとさまにうちかぶせるごたる気のして」

いいえ、私たちはあなたを見たいのです。

美しい不知火の海、素朴にうたいつづけた、すなごりの唄を。そして今もうたいつづけているあなたたちの声にならない声を。この目で、しかと、みとどけたいのです。

・足尾銅毒事件いらい工業立国にひたばした明治百年の歴史は、今日の公害病の潜伏期の百年でした。チッソは醋酸生産で日本一にまで成長を続け、企業体質からいっても、水俣病は、おこるべくしておこったものといわれています。

そして、GNPが世界第2位といわれ、その中でぬくぬく生きている善良な市民の一人である私たちノ日本の科学は、すばらしく進歩したという。その科学の恩恵によって、人々の生活水準は向上したという。その上まだ欲の深いことを考えている。私たちが加害者なのです。被害者であると同時に。安逸を貧ることによって。沈黙し、無関心であることによって。

このまゝつづければ水俣病は未来の私たちの姿でもあることは明白です。

患者さんたちの姿は、私たちの文明とよばれるものを、私たちの生き方を、鋭く問いかけることでしょう。

・映画は、悲惨であると同時に無垢な美しさに充ちているといわれています。

患者さんたちのまなざしに答えて、優しさと愛とが、私たちの心によみがえった時、あす、私たちは何をなすべきか、決意できるかもしれません。

一人でも多くのひとをさそって見に来て下さい。

★ この映画「水俣」は、6月13日カナダのモントリオール第一回世界環境映画祭で世界各国の出品作125のうちからグランプリに選ばれました。

### 長篇記録映画「水俣」—患者さんとその世界

監督 土本典昭 製作 青林舎

とき 9月8日(土) 第1回 3時より5時 第2回 6時半より8時半

ところ 土浦市民会館小ホール

会費 200円